

令和6年12月13日

秩父市議会議長 堀 口 義 正 様

まちづくり委員長 木 村 隆 彦

まちづくり委員会行政視察報告書

- 1 期 日 令和6年10月8日（火）～10日（木）
- 2 視察先 滋賀県甲賀市、滋賀県長浜市、愛知県豊橋市
- 3 参加者 委員長 木 村 隆 彦 副委員長 小 松 穂 波
 委 員 黒 澤 秀 之 委 員 内 田 均
 委 員 高 野 宏

4 視察目的

滋賀県甲賀市 「甲賀の豊かな森林づくり構想」

○ 市の概要

甲賀市の人口は、87,965人（令和6年9月末現在）となっている。面積481.62km²で県土の約12%を占めている。位置と地勢では滋賀県東南部に位置し、大阪・名古屋から100km圏内にあり、近畿圏と中部圏をつなぐ広域交通拠点に位置している。その東南部は、標高1,000mを超える山々が連なる鈴鹿山脈により、西南部は信楽盆地とこれらに続く丘陵性山地により各々三重県、京都府に接している。特に、鈴鹿山系を望む丘陵地で、野洲川・杣川・大戸川沿いに平地が開け、また森林も多く琵琶湖の水源涵養、水質保全にも重要な地域となっている。

○ 事業の概要

甲賀市の森林面積は32,429haで森林率は67%。その内人工林面積は17,734ha人工林面積は55%で滋賀県平均の42%を上回る林業地帯であり、60年生以上の森林の蓄積は全体の74%と森林資源は充実している。令和4年6月に「第72回全国植樹祭」が甲賀市の鹿深夢の森を主会場として開催されたことを契機に、森林整備・保全などの森づくりに対する市民の関心

が高まり、次世代につなぐ取り組みとなるよう、「甲賀の豊かな森林づくり構想」が策定された。甲賀の豊かな森林づくり構想は、令和4年に宣言した「環境未来都市宣言」、「豊かで健康な森づくり」及び「ウッドスタート宣言」を実践していく計画であり、今後の甲賀市の森林整備、木材の利用、木育、森林に関わる人材育成、団体支援の施策を推進していくための基本構想である。



滋賀県長浜市 「黒壁スクエアを中心とした街づくり」

○ 市の概要

長浜市は、滋賀県の東北部に位置し、北は福井県、東は岐阜県に接している。周囲は伊吹山系の山々と、ラムサール条約の登録湿地でもある琵琶湖に面しており、中央には琵琶湖に注ぐ姉川や高時川、余呉川等により形成された豊かな湖北平野と水鳥が集う湖岸風景が広がり、県内でも優れた自然景観を有している。また、北國街道やこの街道と中山道を結ぶ最短経路であった北國脇往還沿道や、戦国時代を偲ばせる長浜城や小谷城跡、賤ヶ岳、姉川古戦場をはじめ、竹生島の宝厳寺、渡岸寺の国宝十一面観音をはじめとする数多くの観音が祀られる観音の里など、すぐれた歴史的遺産を有している。この地域は、京阪神や中京、北陸の経済圏域の結節点としての位置にあり、京都市や名古屋市からはおおよそ 60 km 圏域、大阪市からはおおよそ 100 km 圏域にあり、JR 北陸本線・湖西線や北陸自動車道を主な広域交通軸として、これらの経済圏域と利便性高く結びついている。さらに、平成 18 年 10 月に JR 北陸本線・湖西線が直流化されたことにより、「琵琶湖環状線」として京阪神圏はもとより、北陸圏域への交通便利性が今後ますます高まるものと考えられる。



面積は 681.02 km²（琵琶湖を含む）。人口は 112,607 人（令和 6 年 10 月 1 日）。

○ 事業の概要

黒壁という名称は、1900 年に建てられた「旧第三百十国立銀行長浜支店（通称黒壁銀行）」が黒漆喰の壁であったことに由来している。郊外型大型店の進出等により商店街がさびれていく中、行政と民間有志者が協力して街の再生を目的とした「株式会社黒壁」を 1988 年に設

立。古い町並みと、地元商品と競合しないガラス文化を融合させ、黒壁スクエアとして街の再生を行い、現在は年間約 200 万人近い来街者で賑わう観光スポットになっている。



愛知県豊橋市 「道の駅とよはし」

○ 市の概要

豊橋市は、明治 39 年 8 月 1 日に全国で 62 番目の市として誕生し豊橋市の人口は 366,456 人（令和 6 年 10 月 1 日現在）。面積は 262.00 km²である。東は弓張山系を境に静岡県と接し、南は太平洋、西は三河湾に面しており、豊かな自然と温暖な気候に恵まれている。

○ 事業の概要

道の駅「とよはし」は、豊橋市と国土交通省名古屋国道事務所が一体となり令和元年に開業した。震災等に備えるため「豊橋市地域防災計画」に位置づける防災活動拠点となっている。安全、安心、新鮮な地元農産物を販売する農産物直売所に隣接する形で、その農産物を使った料理を提供する飲食施設を設けるとともに、農家や地元企業等が連携する『6次産業化支援事業』を展開し、地産地消と食農教育を推進している。



また、周辺の地域や施設を公共交通で接続し、高齢者の買物や食事等の非常支援や情報交換等を行う交流の拠点となっている。全体面積は約 37,800 m²（西側約 11,500 m²、東側約 26,300 m²）、駐車場 258 台、道路情報・観光情報提供コーナー、休憩コーナー、物販店舗、飲食施設、農産物直売所、プロジェクト室、防災備蓄倉庫、EV 充電器 2 器、サイクルラックが設置されている。

【 まちづくり委員会視察報告 木村隆彦 】

まちづくり委員会の行政視察として、滋賀県甲賀市、長浜市、愛知県豊橋市の道の駅「とよはし」の視察を行った。甲賀市においては、第72回全国植樹祭の開催地であり、その後の森林環境や市民の意識の状況について伺った。植樹祭では、「木を植えようびわ湖の緑のしずくから」をテーマにサテライト会場を含め、約15,000人が参加している。また、甲賀の豊かな森林づくり構想を掲げ、環境未来都市宣言やウッドスタート宣言を行い、植樹祭後の市民意識の高揚を強く感じた。今後秩父市としても、植樹祭に向けて市民意識の高揚への取り組みが重要になると感じた。長浜市の視察では、午前中には黒壁スクエアを探索した。黒壁スクエアには平日にもかかわらず多くの観光客が来訪し、特に黒壁ガラス館は多くの女性客で賑わっていた。通常は地場製品の販売を中心に考えるが、地場産業ではないガラス工芸の販売という独特なまちづくりを感じた。豊橋市の道の駅「とよはし」は、令和元年5月26日に開駅した。以前は農産物直売所であったが、その施設と統合し新たな道の駅を開駅した。令和3年の来場者数は221万人で全国の道の駅でも有数の規模である。施設に関しては愛知大学の学生や、㈱電通のクリエイターとともに商品開発を行い特色のある店舗としている。農産物直売所「あぐりパーク食彩村」と、その隣に地域振興施設「Tomate（トマッテ）」があり、Tomateは「まちの縁側」をコンセプトに、地域の特産品の販売や、地元の農産物などを利用した料理を提供するテナントが出店している。施設中央には「縁側広場」が設置され、休憩や飲食の場として利用できる。道の駅ちちぶも改修が必要だと感じた。

【 まちづくり委員会行政視察を終えて 小松穂波 】

今回のまちづくり委員会行政視察は、滋賀県甲賀市の「甲賀の豊かな森林づくり構想」と同県長浜市の「黒壁スクエアを中心とした街づくり」、愛知県豊橋市の「道の駅とよはし」の3市を訪問し、先進事例などの行政視察を行った。初日に訪問した甲賀市は、令和4年6月5日に甲賀市「鹿深夢の森」を主会場として、第72回全国植樹祭が行われており、来年度（令和7年5月25日）に秩父ミュージックパークを主会場に行われる、第75回全国植樹祭埼玉大会の先行自治体である。この全国植樹祭を契機に高まった、森林整備・保全などの森づくりに対する市民の関心を次世代につなぐ取り組みとして「甲賀の豊かな森林づくり構想」を策定し構想に沿って実践している。2日目に訪問した長浜市の「黒壁スクエアを中心とした街づくり」は、昭和63年から始まっており、失われた30年と言われる平成期において、交流人口を拡大させ、にぎわいを創出してきたまちづくりの先進地で、ハード・ソフト両面の支援を充実させ、空き店舗対策に大きな効果を出している。最終日は、令和元年にオープンした、豊橋市の「道の駅とよはし」を訪問し、その取り組みを視察した。「道の駅とよはしで叶う、4つのモノ・コト」として、「食べる」「買う」「体験する」「使う」がある。食べる・買うは道の駅では当たり前だが、体験する・使うは、道の駅とよはし独自の取り組みで、「体験する」は収穫体験や各種アクティビティ、「使う」は教室やセミナー・マルシェや移動販売などで、常に、訪れる人々を飽きさせない工夫をしている。

今後の秩父市のまちづくりの参考となる有意義な視察研修であった。

【 まちづくり委員会行政視察を終えて 黒澤秀之 】

まちづくり委員会として、全国植樹祭開催自治体における森林づくり・林業振興施策、中心市街地の再生・活性化施策、道の駅建設による地域振興施策などの先進自治体として、滋賀県甲賀市及び長浜市、愛知県豊橋市の行政視察を行った。甲賀市は、第72回全国植樹祭の開催を契機に、森林整備・保全などの森づくりに対する市民の関心が高まったことにより、森林づくり構想を策定している。当市においても、来年の全国植樹祭開催に向け、市民参画を念頭にイベントの開催など、森林の整備・保全に対する機運を一層醸成させるための取り組みが必要であると感じた。長浜市における中心市街地の再生・活性化施策においては、大型商業施設の郊外出店に伴う人口集積地域の衰退を発端とした中心市街地の空洞化を官民連携により、時代にマッチした観光地域へ変容させた成功事例である。当市と同じ時期に登録されたユネスコ世界無形文化遺産である長浜の曳山まつりを基軸とした文化や伝統的な街の雰囲気や現代の生活の中で生かした好事例であり、当市においても秩父夜祭や川瀬祭りといった祭り文化を中心市街地のカラーとした街づくりに活かすべきではないかと感じた。豊橋市における道の駅建設による地域振興施策においては、道の駅が道路利用者への単なる休憩機能を持った施設から、地域住民のための交流施設や防災施設、地域創生における拠点へとその役割が大きく変貌していることが感じられる視察となった。当市には、3つの道の駅が存在しているが、当面、老朽化が著しく中心市街地にも程近い「道の駅ちちぶ」の再整備について検討を早急に開始しなければならない時期であり有意義な視察となった。

【 まちづくり委員会行政視察を終えて 内田均 】

まちづくり委員として10月8日から10月10日まで滋賀県と愛知県を視察した。

1日目は、滋賀県甲賀市の甲賀の豊かな森林づくり構想について伺った。甲賀市では、令和4年6月に「第72回全国植樹祭」が行われたのを契機に構想骨子を策定し、適切な森林管理の推進・木材利用、木育、普及啓発の推進・森林にかかわる人材育成・団体支援を掲げ、令和6年から10年間（5年目に中間評価・見直し）を目標に、次世代につなげる取り組みを実施している。秩父市でも植樹祭を契機に、森林づくりに興味を持つ施策に繋がりたいと感じた。

2日目は、滋賀県長浜市の黒壁スクエアを中心とした街づくりについて視察した。ユネスコ無形文化遺産「湖国長浜曳山まつり」も実施される長浜市は、木之元宿・黒壁を拠点とする街づくりを実施し、観光の拠点として、レトロな雰囲気が漂う城下町になっていた。秩父市も観光地としての街づくりをしているが、新しい出店に際し一貫した施策が必要であると感じた。

3日目は、愛知県豊橋市の「道の駅とよはし」を視察した。ここは、JAの跡地に農産物直売所と道の駅を合体させた複合施設である。豊橋市とJAが出資し、令和元年に建設された。広大な敷地で駐車場も500台以上駐車できるスペースとなっている。防災拠点としても利用可能となっている。豊橋市の台所として何でも揃っていて週末では駐車場が足りない状態とのことである。有意義な視察であり市政に反映していきたい。

【 まちづくり委員会行政視察報告 高野 宏 】

まちづくり委員会行政視察は、滋賀県甲賀市の「甲賀の豊かな森林づくり構想」、滋賀県長浜市の「黒壁スクエアを中心とした街づくり」、愛知県豊橋市の「道の駅とよはし」の3市を訪問し、先進事例や施策、事業の進捗状況、成果等について研修を受けた。

第1日目の10月8日は、滋賀県甲賀市を訪問し、甲賀の豊かな森林づくり構想策定の経緯、概要について視察を行った。令和4年甲賀市で開催された「第72回全国植樹祭」の概要、全国植樹祭を契機とした森づくりに対する市民意識の変化について、全国植樹祭の所感と植樹祭後の事業や事務について、担当職員から詳細な説明を受け、議員からも多くの質問が出て、大変参考になる研修となった。2日目10月9日は、滋賀県長浜市を訪問し、黒壁スクエア整備の経緯や背景、経過について、古い建物と新しい建物の調和や工夫について、多くの観光客を誘致するための施策、観光客数や地域経済に与える影響について、黒壁スクエアの維持管理や現在の課題と今後の展望について、現地視察も含め研修を受けた。この地域は、歴史的にも有名なところであり、趣のある建物が多く残されており、平日でも大勢の観光客が訪れていた。3日目10月10日は、愛知県豊橋市の「道の駅とよはし」を見学した。この施設は、豊橋市と農協との第3セクターで運営されており、愛知県で最大の道の駅であり、愛知県として初めての「地域防災活動拠点」に位置付ける道の駅である。地域住民の生活の拠点であり県内外からの来客数も大変多く、年々増加・発展している。今回の3市の訪問は秩父市のまちづくりにも大変参考になる研修視察であった。